

あすの太田っ子を育てる 親への提言

中学生編



太田市教育委員会

はじめに

近年、核家族化や共働き家庭の増加など子どもを育てる環境は大きく変化してきております。このような中、保護者の皆様にとりましては、育児不安や悩みを抱えながらも愛情を持って日々子育てに奮闘されていることと思います。

家庭は、子どもにとって最初の人間形成がおこなわれる場であります。それゆえ、子どもの健やかな成長を望むにあたり、家庭における親の役割というものは大変に重要なものとなってまいります。

そこで、本市では、これからの子どもたちが心身ともに健やかに成長されることを願い、家庭教育冊子「あすの太田っ子を育てる親への提言」を作成しました。

日常生活の中で、お父さん、お母さんが、仲良くいつも心をひとつにして、互いに信頼し合い・助け合う家庭、そして、感謝に満ちあふれ、明るく平和な家庭をつくることこそ、“人間性豊かな明るくたくましいあすの太田っ子”が育っていくものと思います。

これからの社会に生きる子どもたちには、広い心、健やかな心身、そして豊かな創造力を持ち、家族や地域社会のために役立つような人に育ててほしいと誰もが願うものでありましょう。

「子どもは親の後ろ姿を見て育つ」といわれます。お父さん、お母さんには、是非とも我が子の良き手本となり、素晴らしい家庭をつくっていただくため、この冊子をご家庭でご活用されることを心より願っております。

終わりに、この冊子の作成にあたり、ご協力をいただきました太田市社会教育委員の皆様方をはじめとし、関係各位に対し心より感謝申し上げ発刊のことばといたします。

太田市教育委員会

* お役に立ちます *

中学生の時期は思春期のはじまりです。
この時期の家庭教育の重要性と難しさを考え、
お子さんの健やかな成長を願って、
この時期における子育ての悩みごとや不安への対処法を
Q & A形式で解説しております。
『たくましい太田っ子』を育てるため、
是非ご活用ください。

- 1 本書は、中学生のお子さんを持つ保護者の方が抱える悩みごとや不安を 10 項目（26 事例）に分け、その対処法を Q & A形式で解説しております。
- 2 本書で述べられていることは、一般的な対処法であり、個々の状況により対処法も異なりますので、解決のための一助としてご活用ください。
- 3 家庭教育に関連のある施設名およびその電話番号を巻末に記載しましたのでご利用ください。



目次

■ 1	命の大切さ	
	Q 1 「生まれてこなければよかった」という	1
	Q 2 命を大切にすることを身につけさせたい	2
■ 2	自立心	
	Q 1 母親に甘えすぎる	3
	Q 2 いちいち言われなければ行動ができない	4
■ 3	家族と家庭	
	Q 1 親と口をきかない	5
	Q 2 父親を避けるようになった	6
	Q 3 友達とばかり出かけたがる	7
	Q 4 親に反抗的な態度をとる	8
■ 4	生活習慣	
	Q 1 夜更かし朝寝坊が目立つ	9
	Q 2 家事を手伝わない	10
■ 5	人とのふれあい	
	Q 1 友達ができない	11
	Q 2 言葉遣いが乱れている	12
■ 6	性について	
	Q 1 エロ本、アダルトビデオを見つけました	13
	Q 2 性病について知りたがる	14
■ 7	学習・進路について	
	Q 1 テストの結果を見せない	15
	Q 2 塾に行っているが成績が上がらない	16
	Q 3 「高校に行きたくない」と言っている	17
	Q 4 自分の将来に対する目標が持てない	18
■ 8	情報との関わり	
	Q 1 携帯電話を持たせてもよいか	19
	Q 2 ブログ、裏サイトにアクセスしている	20
■ 9	食事・健康	
	Q 1 朝食をとらない	21
	Q 2 スポーツをしたがらない	22
■ 10	非行	
	Q 1 娘が万引きをした	23
	Q 2 息子の部屋でたばこを見つけた	24
	Q 3 薬物乱用防止に対する知識を理解させたい	25
	Q 4 深夜徘徊・外泊が多い	26
	○子育てに利用できる主な施設及び電話番号	27

■ 1 命の大切さ

Q 1 「生まれてこなければよかった」という。 (中3. 女子)

時々「私なんか生まれてこなければよかった」と言ったりして親をびっくりさせます。ほっておくと自殺でもしてしまうのではないかと心配です。どのように接してどのような言葉をかければよいのでしょうか。

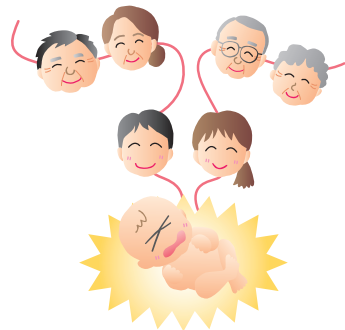
A 1

この時期は体が大きくなり、力も強くなり、身体的には大変成長の激しい時期です。また、自我が目覚め、社会性も発達する時期ですが、第二反抗期と言われる時期でもあり、情緒的には大変不安定な時期でもあります。迷いや悩みも多く、人生の中で一番難しい年代であるとも言われています。

中学生時代は、多くの子どもたちが、自分と他人を比較したり、他人の言動を気にしたり、自分の意見を主張するなどして素直に周りの意見を受け入れられなくなったりもします。時には、自分自身の存在そのものにも不安を抱いたりする時期でもあります。

お子さんが、時々「生まれてこなければよかった」と言ったりして落ち込んでいる様子に大変ご心配されておられることと思われます。今後のお子さんとの接し方については、その都度お子さんが何について悩んでいるのかを理解してあげることが大事であり、親として共感を持って話し相手になってあげることが大切です。この時期の子どもたちの悩み事は、大人から見ればたわいもないと思われるようなことが多いのですが、子どもにとってはひとつひとつが重大なこととして捉えている場合が多いので、子どもと同じ目線で相談にのってあげることが大切です。

ただここで「人の命の尊厳」についてはしっかり話をしてあげていただきたいと考えます。現在のひとつの命は両親をはじめ、過去何千何万という命のつながりの上に成り立っているということです。途中のひとつの命が欠けても現在の命は誕生できなかったということです。それほど厳しい経過を経て誕生してきたひとつの命はただ単にその人だけのものではなく、多くの先祖やこれから誕生するであろう子孫の命にも大きな関わりがあるということをしっかり伝えていただきたいと思います。



Q2 命を大切にすることを身につけさせたい。(中1.男子)

近頃社会での犯罪が凶悪化し、過激になり、人の命を何とも思わないようなことが行われています。子どもに命の大切さを身につけさせるためには親としてどう対応したらよいでしょうか。

A2

ご相談者のお悩みのおお、テレビや新聞等では繰り返し悲惨な殺傷事件が報道されています。殺害の対象は「誰でもよかった」「殺してみたかった」という理由だけで他人を殺傷したり、親子や夫婦、兄弟等の肉親間の殺傷事件が起こったりすることも珍しくなくなっており、大変憂えるべき状況が現実になっています。



この背景としては、複雑化した社会の変化もその一因として考えることができますが、最大の原因は家庭教育の崩壊にあると考えます。家庭内における家族関係のきずなが希薄化し、家庭教育の基礎そのものが揺らぎ始めているところに大きな問題があります。

家庭教育は教育の原点であり、命の大切さを身につけたり、豊かな心を育んだり、基本的な生活習慣を身につけたり、やる気や責任感等を身につけたりすることができるなど極めて重要な役割を担っております。これらは家庭における家族間の信頼関係に支えられた家族のきずなのなかでこそ培われてくるものと考えます。家庭には、家族相互の信頼関係があり、さらに、家族の一人ひとりが家庭内における存在感があり、さらに家族の一員としての役割分担を果たすことができている事が大切です。このような家庭生活を経験することで、子どもは命の大切さを身につけたり、豊かな心を育んだりすることができます。このことは社会生活の基礎を身につけるための極めて大事な経験となります。

具体的には、平成20年度太田市社会教育委員会議答申、健全な「家庭づくり」に対する方策について—家族の会話を通した「家族のきずなづくり」—をご参照いただきたいと思います。

「三つ子の魂百までも」ということわざがあるので、中学生の我が子にはもう手遅れではないかと考えがちですが、決して手遅れなどはありません。人間は人と人との関わりの中でどんどん変わり、一生涯成長をし続けるからです。お子さんをはじめ家族との一層のきずなづくりに努力をなされますよう期待いたします。

■ 2 自立心

Q 1 母親に甘えすぎる。

(中1.男子)

3人姉弟の末っ子ですが、母親に甘えすぎているように感じます。眠れないからと言って時々母親の寝室で一緒に寝たりします。このままでは自立心が育たないのではないかと心配です。

A 1

個人差はありますが、中学生のこの時期は徐々に親離れをし、自立心が育つ時期です。末っ子のため少々甘えっ子として育ててきたのかとも思われますが、自立のためのまわりの家族の関わりが大切と考えます。

幼児期は、親子の関わりが最も大事な時期であり、添い寝は子どもにとってはとても安心できる場であり大変必要なことです。子どもは児童期に入ると徐々に自立心が芽生えはじめますが、この頃は場合によっては添い寝も大事なスキンシップの場となることもあります。しかし、小学校の中学年頃から一般的にギャングエイジといわれる時期にはいり、徐々に親離れが始まり同年代の子どもとの関係が大事になってくる時期となります。そして、中学生になると社会性も身についてくる反面、第二反抗期が始まり、批判的に物を見るようになり、親離れが進む時期となります。つまり、精神的自立への欲求が強まり、心理的離乳が行われる時期となります。

心身の発達には個人差がありますが、親離れも発達段階のなかの大事な節目の一つです。これまでどおり愛情をもってお子さんと接することは大事なことです。ので急に突き放すのではなく、家族の一員としてのお子さんの人格を認め、自立のためのまわりの関わりが大切です。



中学1年生になったこの時期は、親子のスキンシップよりも家族一人ひとりの考え方や生き方に対する相互理解のための会話や行動が大切と考えます。そして、親や姉たちとの会話や行動が本人の将来の生き方の参考になるとともに、家族が相互に切磋琢磨出来る家庭は理想の家庭と考えます。

Q2 いちいち言われなければ行動ができない。 (中2.女子)

勉強の仕方や部活を決めること、進路選択のことなど親が一つ一つ指示しないと決められません。自分のことなのだから自分で決めてほしいと思います。どうアドバイスしたらよいでしょうか。

A2

ご相談者のお子さんは、自分で勉強の仕方や部活動等を決めることができないということですが、逆に、これまで親が決めたことをお子さんがけなげに続けられてきたこと自体を不思議に思います。相談者が心配されているように、このようなことは本人にとっては決して良い状況とは考えられません。親としてはこれまでの親子の関わり方についてもう一度振り返ってみる必要があると考えます。

人は繰り返し否定されると自信をなくしてしまいます。親子の関係では親は子どものために良かれと思う故、親の考え方を前面に出しがちになります。しかし、このことが繰り返されると、子どもの考えは制限されることとなります。

幼児期は特に問題はないのですが、児童期に入り、徐々に自立心が芽生え始める時期に親の人生観をあまり前面に出して子どもと接することは子どもに対して親の考えを押しつける結果となり、結果的には親の指示なしには行動ができなくなってしまふ恐れがあります。

お子さんはすでに中学2年生になっておられますが、今からでも手遅れではありません。親としては本人の考えをしっかりと認めて受け止めてあげることが大切なことです。あくまでも、本人の考えが実現できるようにサイドからしっかりアドバイスをしてあげることが親としての大事な役割と考えます。親は子どもを自分の人生の延長上に考えるのではなく、あくまでもお子さんのこれからの人生のサポーターであるとの立場をしっかりとわきまえ、愛情を持って関わってほしいと思います。



特に、これから決定をし実践していかなければならない本人の進路については、本人の人生そのものに関わることで本人の性格や興味、特技について十分に話し合いを行い、親としての理想ではなく本人の適性にあった最良の進路が決定されることを期待します。

■ 3 家族と家庭

Q 1 親と口をきかない。

(中2.男子)

最近親と話をしなくなりました。何を聞いても「うるさい」と言うばかりです。食事の時も黙って食べており、食後は部屋に閉じこもってしまいます。何を考えているのかさっぱりわかりません。同級生の女の子の母親は何でも話してくれると言っておりますが、こんな息子とどう向き合っていけばいいのでしょうか。

A 1

お子さんは今第二反抗期のまっただ中にある時期と考えます。これまで親の言うことに対しては何の抵抗もなく素直に対応をしていたお子さんの態度が変わり、中学生になってから徐々に親子の関係に変化が出てきたことに対して、親としてとまどいを感じていることと思います。



中学生のこの時期は個人差や男女差等もありますが、一般的に自我が芽生えはじめるとともに、精神的には大変不安定な時期となります。親を頼っている反面自分の考えを主張したり、自分が直面している状況をまわりにはわかってもらえないと考えたりするなど、自立心が進む一方で一人でいろいろと悩む時期でもあります。

この傾向は比較的女の子より男の子に多く見られるようです。女の子は逆に、学校から戻ると母親と話をすることを楽しむように、学校等であった出来事をこと細かに話すという子どももいるようです。

これらはそれぞれ発達段階における成長過程の特徴と考えるべきであって、親が無理に変える必要はないと考えます。しかし、親子や家族間に会話は必要なことですので、子どもからの会話がなくても親としてはあきらめずに話しかけは続けていただきたいと考えます。そして、この時期の親子の会話はできるだけ指示的会話とならないように留意することが大切です。この第二反抗期は親にとっても子どもにとっても大変難しい時期ですが、この時期の親子関係がうまくいくかどうかはその後の親子関係をはじめ子どもの進路選択にも大きく影響をすることとなります。

男の子は父親の生き方が手本となりますので父親の関わりも大切な時期です。夫婦で力を合わせて子育てに関わっていただきたいと考えます。

Q2 父親を避けるようになった。

(中2. 女子)

最近父親を嫌うようになりました。小学生の頃はパパっ子だったのに。父親が臭いとか汚いとか言って、居間に父親がいるときは居間にも近づきません。父親は話したがっておりますし、これからの進路のことなど父親と相談しなければならないことが多いのにどうしたらいいのでしょうか。

A2

娘さんが父親を避けるようになるのは思春期の成長過程としては当然のことだと思います。今まで父親を絶対的な存在として信頼し、受け入れてきたのが、徐々に人間として、異性として見るようになります。そして批判もするようになります。また、思春期の女の子は自分の身の回りのことをはじめとして、臭いや清潔感などにも敏感になります。外でどんなに格好が良くても家でだらしない姿でくつろいでいる父親が許せないという潔癖な面も出てきます。父親は娘の成長に気がつかず、依然としてなんでも親の思うとおりになると思っているのではありませんか。

まずお父さんの方から、娘さんを一人の人間として認め、対等に接するように努めましょう。つい子どもの顔を見ると勉強したかとか、小言を言いたくなりますがそれを止めて、少し距離を置いてみましょう。上から押し付ける口調ではなく、ヒントを与える言い方をしてみてください。それからお父さん自身も家にいるからといって、だらしない服装はやめて、清潔な格好を試みてはいかがでしょうか。日本の男性はスーツ姿以外のおしゃれが苦手だといわれます。思いきって家の中でカジュアルなおしゃれに挑戦してみてください。娘さんがお父さんを見なおすかもしれません。

お母さんのサポートも重要です。お父さんの大変さ、偉さを事あるごとに子どもに伝え、子どもの前では決して悪口は言わないでください。お母さんがお父さんを尊敬し、信頼し合う夫婦関係ができていればおのずと子どもとの関係もうまくいくと思います。

家の中心はお父さんであることは事実なのですが、お父さんももっと自信を持ってください。家族を支配しようとするのではなく、何かあったら「やっぱりお父さんね」と自然に家族が頼ってくる存在感ある父親になるよう心がけることも必要です。



Q3 友達とばかり出かけたがる。

(中2.男子)

土曜日や日曜日で部活のない時などは家族でドライブや外食をしようと誘っても最近はいつも友達との約束があるからと言って、一緒に行こうとしません。今までは家族との旅行や買い物、食事などに喜んで行ったのと思うと残念です。楽しみにしている恒例の夏の家族旅行も行かないと言ったらどう説得したらよいでしょうか。

A3

両親や家族と出かけるのをいやがるようになる。これは男の子であれ、女の子であれ、当然のことで、親としてみれば大変寂しいことではあります。しかし自我が芽生える中学生のこの時期に親よりもクラスや部活の友人、塾での友人と過ごす時間が多くなってくるのは仕方がありません。また価値観も話題も同じ世代の友人と過ごす方が、勉強、勉強と小言ばかり言ったり、指図ばかりする親といるよりは断然楽しいし、話も弾んで居心地もよいと思います。むしろ、この年頃で友人もなく、親とばかり過ごすことの方が心配です。



思春期においての友人はとても大切なもので、お互い影響し合い、その後の人生観に多大な影響を与えてくれます。一生の友人に出会えるかも知れない時期でもありますし、友人との関係を育む大切な時期でもあるのです。しかし、家族の存在を無視していいというものでもありません。家族があってこそ自分が存在するのです。

基本的な家族のルールはきちんと決めておきましょう。家族旅行は、家族の一員としての大切な思い出づくりの場でもあるわけですので参加するように説得し、理解させるべきです。また家族構成員としての約束事は最低限守らせることも必要です。誰とどこに行くのか、何時ごろ帰るか程度のことは常に家族に伝えるように決めておくことです。それから家に友達が気軽に来られる雰囲気を作っておくことも大切ではないでしょうか。干渉するのではなく、さりげなくどんな友人と付き合っているのかを見守れるチャンスです。友人の名前、連絡先などを把握しておくことも緊急時対応だけでなく必要なことです。

ぜひ家族を基礎とした家族間の約束事を守らせた上で、友人関係をおおいに発展させ、お子さんの人間性、社会性を成長させる良い機会にしてください。

Q 4 親に反抗的な態度をとる。

(中3.男子)

最近はいつもいらしている様子で、生活習慣も乱れているので注意すると「うるさいこのくそババア」と言って怒り出します。父親が注意しても反抗してきます。このままでいったら暴力沙汰になり、あげくの果てには非行にはしるようになるのではないかと心配です。どのように接したらよいでしょうか。

A 4

第二反抗期と考えられるこの時期の子どもたちは、心がとても不安定です。急激な身体的発達で大人に近づいているように思うのに、精神的にはまだまだ未熟でおぼつかない、それが自分でもわかるだけに本人はもどかしい思いをしています。周りの期待に応えたいし、自分も納得したい、しかし実際は一生懸命やっているのに何故かうまくいかない、こんなときは誰だっていららして情けない思いをします。親に向かって汚い言葉で反抗的になったとしても、一時的なものやゆったりと構えてみたらよいのではないのでしょうか。人間はうまくゆくときもあればゆかないときもあります。そのときの巡り合わせや組み合わせで全てが順調に感じられるときも来るでしょう。親の構え方にゆとりがあり「大丈夫だよ。慌てないでそのままでもいいんだよ」という一言で本人も随分気持ちが悪くなることでしょう。



しかしながら、暴力沙汰にまで進行してしまうと、ことはそう簡単に治まりません。親が解決を急ぎすぎると返ってこじれる原因にもなりかねません。子どもは暴力を振るいたいと思っているのではなく、自分のことを理解してもらいたいのです。子どもを非難したり責めたりせずに、直接話すことが無理な状況であれば手紙やメモなどで意思を伝えるのも一つの手段です。

とにかく、焦らずに時間をかけてゆっくりと親子で解決してください。一方的に押さえつけるような解決の仕方は信頼関係を余計に悪化させる危険性があります。親子ともに信頼している人がいれば相談にのってもらうのもよいかもしれません。

■ 4 生活習慣

Q 1 夜更かし朝寝坊が目立つ。

(中2.男子)

特に勉強をしているわけでもないのに毎晩音楽やラジオを聞いていて、深夜まで起きています。必然的に朝はぎりぎりまで寝ています。育ちざかりに寝不足や不規則な生活は体に良くないと思いますが、親が言っても聞いてくれません。どうしたらわかってもらえるのでしょうか。

A 1

生活リズムが24時間化している現代社会の中では、大人だけでなく子どもたちもそのリズムに巻き込まれているといってもよいでしょう。「夜更かし朝寝坊」は脳の発達や心の健康、また学校生活にも大きく悪影響を及ぼす可能性があります。「学力の低下」「不登校」「キレル」といった子どもたちの行動にも無縁とはいえません。医学的にも睡眠と脳の発達には深い関係があります。

それでは乱れた生活のリズムをどう立て直したらよいのでしょうか。中学生になっていきなり夜更かし朝寝坊になったとは考えられないので、それまでの家庭生活のあり方を総点検してみる必要があります。家庭の中での約束ごとを作ってみてはいかがでしょうか。起床の時間・洗顔・朝食・登校のしたく・帰宅時間・夕食・テレビを見る時間・学習時間・就寝時間等、子どもにとって家庭生活に関する決めごとを見なおしてみましょう。ただし約束ごとの決め方については、親の一方的な強制ではなく、年齢や発達段階に応じて合意の上で説得し納得のいく方法がよいでしょう。また子どもだけでなく家族全員の約束ごととして家庭生活を改善していくとよいでしょう。



また「早寝早起き」だけでなく「朝ごはん」を必ず食べるようにすることも大切なことです。寝不足の上に十分な栄養がとれていなければ授業にも集中することはできませんし、もちろん学校生活全般にも影響が出る可能性は高いでしょう。

家族全員で家庭生活の見なおし・改善をすることによって正しい生活リズムを作っていくものです。

Q2 家事を手伝わない。

(中3. 女子)

食事の準備や掃除などは普段の実践を通して徐々に覚えてもらいたいと考えておりますが、家の仕事に対しては全く関わろうとしません。やがて家庭を持った時のためにも早く家事に慣れさせたいと考えますが親としてどのようにアドバイスをしたらよいでしょうか。

A2

家事をみんなで分担することは非常に大切なことです。なぜなら家族の一人ひとりが役割分担して共同生活していくのが本来の家族の在り方だからです。

家事を自分から積極的にやらない場合は、まず最初に家族全員で家事の分担についてよく話し合しましょう。はじめは自分でやりたい家事を選ばせてもよいでしょう。しかし、家事の分担はみんなが平等になるように決め、それを守らせるようにします。

家事を少しでも手伝うことができたときは褒めてあげることが大切です。「ありがとう」「助かった」などの一言で家事をやる意欲が引き出せるはずですよ。

また、ボランティア活動などに参加して社会において自分に何ができるのか考えさせる機会を作ってやるとよいでしょう。集団の中で自分の役割を見だし、社会の中で構成員として自分の存在価値を認識させることができるからです。

以下になぜ家事を手伝うことが大切なのか箇条書きしました。こういうことを家庭で話し合う機会をぜひ作ってください。



- ① 家事をすることにより親や家族の負担を減らすことができ周囲へのいたわりや平等の精神を養うことができます。
- ② 自分にできることは自分でやるといった自立の精神を養うことができます。
- ③ 家事をすることにより決められたことは、しっかりやるといった社会規範意識を学ぶことができます。
- ④ 家族の信頼関係を高めコミュニケーション能力を養うことができます。
- ⑤ 気づきができる人間になれます。

■ 5 人とのふれあい

Q 1 友達ができない。

(中2.男子)

協調性がないのか友達とおしゃべりをしたり、たわいもないことで笑ったりということがなく、友達ができないようです。自分の世界に閉じこもりがちで周囲から孤立してしまっているようです。周りとの関わり大切さをわからせるために親としてどのようにアドバイスをしたらよいでしょうか。

A 1

人間の生活は、人と人との関わりの中で成り立っており、一人だけで生きていくことはできません。そのため友達とおしゃべりをしたり、友達と行動を共にして楽しんだり、協力をし合ったりするなど周りとの協調する力を身につけることは人間としてとても大事なことです。

ところで、周りとの協調するということは、周りの空気に合わせるだけでは十分とはいえません。人と人との関わりを充実させるためには、自分自身の力を磨くことが大事であり、周りの人に好感を抱かれるような魅力的な人間性を身につけることが大切であると考えます。そのためには、日々の生活の中で、何に対しても前向きに取り組んだり、自分の得意とする教科に力を入れて取り組んだり、部活動に力を入れたりなど、自分の性格や、趣味・特技を生かした生活実践を通して自信を持つことがとても大切なことです。

協調性が必要であるということについてはお子さんもおそらくわかっていることだと思いますので、親の対応としては、このことに対してくどくどと話すのではなく、さりりとふれるだけで良いのではないかと考えます。それより大事なことは、本人の生活の様子をよく観察し、本人が現在興味を示していること、また一生懸命に取り組んでいることを認め、励ますようにし、さらにやる気を起こさせることが大切です。

自分自身に自信がもてるようになると自然に周囲との会話も弾むようになるとともに、周りからも好感をもって接せられるようになると考えます。さらなる親子の信頼関係を期待します。



Q2 言葉遣いが乱れている。

(中3.女子)

友達同士の話の聞いていると、とても乱れた言葉遣いが行われているとともに親や先生など目上の人に対する言葉遣いも乱れており心配です。親としてどう対処したらよいでしょうか。

A2

言葉は人と人とのコミュニケーションを図るための伝達手段であるので、自分の意思を正しく相手に伝えられることが正しい言葉遣いであると考えます。ですから、相手の感情を害するような使い方は正しい使い方とはいえません。

言葉は自分と相手との関係や場によって使い分けをすることが必要となります。最近テレビ等で若者言葉が紹介されておりますが、一部の仲間同士の間で楽しくお互いの意思疎通ができるものであればそれは仲間同士の言葉としての役割は十分に果たしているものと考えます。しかし、この言葉はいつでも誰にでも通用するものではありません。当然友達同士の言葉の使い方と、目上である先生に対する言葉遣いや親に対する言葉遣いなどは自ずと使い分けをしなければなりません。それをうまく使い分けられることが良好な人間関係をつくる上からもとても大切なことと考えます。



お子さんは中学3年生ですので、すでに相手や時と場をわきまえた中で言葉の使い分けをしているものと考えます。しかし、もしその理解が十分でないとしたら、気がついた時に親として注意をするのがよいのではないかと考えます。

また、「子供は親の背を見て育つ」という言葉があるとおり、子どもの言葉遣いは日頃の親の会話の影響を大変受けているものです。ですから日頃から夫婦間の会話や親子の会話等には十分に留意をすることが大切です。

いつも正しい日本語を使うということは大変難しいことですが、少なくとも相手の感情を害したり、相手に対して失礼に当たるような言葉遣いに対しては気づいた時に注意をすることが大切なことと考えます。

■ 6 性について

Q 1 エロ本、アダルトビデオを見つけました。 (中3. 男子)

息子の部屋を掃除していたら、息子の机の引き出しからエロ本やアダルトビデオが見つかりました。親としてどのように対処したらよいでしょうか。

A 1

中学生がエロ本やアダルトビデオに興味を持つのは、ごく自然な事です。女性よりも男性のほうが性に関して興味が強いです。個人差はありますが、あまり心配することはありません。ひとつの通過点としてとらえるようにしてください。

特に男性は、ある年齢に達すると女性よりも性的興奮を求めるようになります。エロ本やアダルトビデオを見つけたのが母親の場合はショックを受けるケースが多いので、よく夫婦間で情報交換しておくことが大切です。

ただし、それがエスカレートして痴漢行為や性的暴力行為に及ぶことがあってはなりません。性犯罪に関するパンフレットや新聞記事などを利用して注意をするようにしましょう。

勉強もせず性的興奮を求めすぎる場合は、異性からよりも同性から注意してもらったほうが効果的です。男子なら父親や先輩の男性などに注意してもらおうとよいでしょう。またスポーツなどにより体を動かすことも取り入れるようにするとよいでしょう。

また、エロ本やアダルトビデオに興味を持つ時期は、異性に興味があるときなので正しい性知識を身につけるよう学校などと連携を取り合って教えていきましょう。

一般的に中学生のころは、男子では射精・夢精が現れるようになり、女性の身体・性器などに興味を持ったり、興奮したりします。男性は女性と違い、愛情を認め合った上での行為だけでなく、衝動的な性的興奮が起こることがあります。マスターベーションは時には、性的意識から精神的に気持ちを安定に持っていくこともあり、回数は問題となりません。



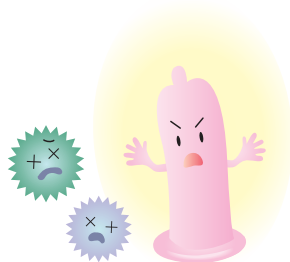
Q2 性病について知りたがる。

(中2.女子)

学校でエイズ・性病撲滅キャンペーンのことを知ったようです。病気のことを詳しく知りたがっています。どこまで話したらいいのかわかりません。医学的な知識もないので客観的に説明するにはどうしたらよいでしょうか。

A2

この時期は精神的にも身体的にも成長が著しく、性に関しては大変興味・関心を持ち始める時期です。だからこそこの時期は自分の体は自分で守ることの大切さを始め、人間の生命に関わる性行為についてもしっかりとした考えを身につけさせることが大切と考えます。特に避妊や性病に関しては専門的な知識に基づいた指導が大切であり、本人の可能性のあるなしにかかわらず、知識はしっかり身につけておくことは大事なことと考えます。書店にはこれらに関する専門書が沢山並んでおりますので、話題となったときをチャンスと捉え、ぜひ娘さんと一緒に書店に出向き、書物を通して共に学習することも有効かと考えます。



以下、性行為などでうつる主な感染症（STD）を列記しますが、すでに症状があるような場合には必ず専門医にご相談ください。

- (1) 淋病：男性は尿道から膿や血が出て放尿の時の痛みが激しい。女性は無自覚のまま他の感染症に進展することもある。
- (2) クラミジア：感染率が高い。感染後女性はおりものが濃い黄色。男女とも自覚症状が少ない。放置すると不妊症につながる。
- (3) 性器ヘルペス：感染後2～7日で発熱をとめない発症する。男女とも陰部に水疱ができ排尿困難を起こす。
- (4) カンジダ症：女性は激しいかゆみとヨーグルト状のおりもの。男性はペニスにかゆみや赤い発疹。
- (5) エイズ：免疫機能が低下し死に至ることもある。現在治療法は確立していない。性行為の他に血液による感染、母子感染などもある。
- (6) 梅毒：放置すると脳や心臓、肝臓まで侵されることもある。
- (7) 尖圭コンジローマ：外陰部にいぼのような物ができ、かゆい。
- (8) 膺トリコモナス症：おりものが薄い膿のようになり、かゆみを伴う。
- (9) 毛ジラミ：ケジラミ虫の感染によるもので、ひどいかゆみがある。

■ 7 学習・進路について

Q 1 テストの結果を見せない。

(中2.男子)

親としてはふだんの授業の様子や成績状況等を知りたいところですが、テストの結果等は見せようとしません。親としてどうしたらよいでしょうか。

A 1

中学2年生のこのころは、自我が確立し、親の干渉から独立心が芽生えてきます。テストの結果を見せないということだけではなく、日常生活の親子の会話も少なくなってきたと思います。この傾向は、男子に顕著で、親の方から質問すれば答える程度ですが、このことは、私たち人間の成長過程の一つと考えられます。ましてや、自分に都合の悪いこととなると、なおさら話さないのが当然と考えるべきです。この場合は、たぶんテストの結果がうまくいかなかったのかなと思います。

テストの結果が悪いときに親に見せれば、毎日の勉強への取り組みだけではなく、当然日常生活まで注意されてしまいます。注意されれば誰でも良い気分にはなれません。当然そこでは防衛本能が働き、見せない、話さない、ということになります。

この循環を断ち切るには、まず、変えることのできない結果についてあれこれ注意することよりも、その結果を招いた原因を考え、これからどうするか、考えさせる必要があります。親が勉強を直接教えることは難しいと思いますので、親の立場では、子どもの物理的・精神的な学習環境整備に努めることが大切です。

また、もっとも大切なことは、ふだんの日常生活の中で、意図的なさりげない親子の対話だと思います。ふだんから親子の対話が行われていれば、良いときも悪いときも素直に対話が行われます。親も忙しくなり、子どもたちも忙しくなるとどうしても共有の時間がなくなります。このようなときは、親の方が意図的に時間を作り、子どもとの対話の場面を作ってほしいと思います。

また、ふだんの授業の様子（学習への取り組み）やテストの結果については、担任の先生に直接相談してみると良いのではないのでしょうか。そこでは、親にとってよくわからない子どもの学校での様子がわかり、情報交換する中でお子さんの家庭での様子をお知らせすれば、学校と家庭との両面から子どもを見守ることができ、健やかな成長が十分図れると思います。ぜひこの機会に担任との話し合いをお勧めします。



Q2 塾に行っているが成績が上がらない。

(中2. 男子)

成績があまりよくないので塾に通わせることにしました。半年がたちますが、成績はあまり変わりません。どうしたらよいでしょうか。

A2

ご質問の成績については、二つの視点から考えられます。

一つ目の視点は、学期末や年度末に配られる「通知表」の成績です。この成績は、中間テストや期末テストなどの、点数だけでつけられるものではありません。点数に表されるものは、毎日の授業内容をどの程度覚え、理解しているか、の部分です。通知表の成績は、このほか子どもたちが毎日受けている授業への取り組みが、大きく影響します。



たとえば、

- ・ 授業の始まりのチャイムが鳴ったとき、席について授業の準備ができているか
 - ・ 学習用具の準備や予習・復習・宿題などの忘れはないか
 - ・ 授業中、私語・出歩き・手悪さ・ノート整理など、学習態度はどうか
- などがあります。

つまり、通知表の成績は、毎日の授業の取り組みを総合的に判断してつけられます。具体的には、毎日の授業内容の「知識・理解」や授業中の「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」などの観点の積み上げで決められます。ご質問の成績を向上させるには、当然日々の授業の取り組みが大切となります。

二つ目の視点は、成績を「知識・理解」に限定したものです。この成績は、学校の授業内容の理解度を中間テストや期末テストなどで確かめるものですから、授業中の学習への取り組みはもちろん、予習や復習など、繰り返しの学習が必要です。ご質問の成績が向上しない原因は、学校での授業への取り組みや家庭での学習習慣に、やや甘さがあるのではないのでしょうか。また、教科によっては、下学年からの積み上げがなければ、今の学習についていけないものもあります。このようなときには、どこまでを理解し、どこからつまづいてしまったのかを考えてみる必要があります。

とにかく、ふだんの授業への取り組みや家庭での学習状況が改善されなければ、たとえ塾へ通い始めても大きな向上は望めないと思います。この点をもう一度見直していただくと同時に、お子さんの学校での様子は担任の先生が、塾での様子は塾の先生が、よく理解していると思いますので、相談していただければと思います。

Q3 「高校に行きたくない」と言っている。 (中2. 男子)

子どもが「高校に行きたくない」と言い出しました。親としては最低、高校だけは行ってほしいと考えておりますが、どう説得したらよいでしょうか。

A3

たしかに、義務教育は中学校3年で終わりです。しかし「高校に行きたくない」という場合、中学校を出てすぐにやりたい仕事があるからとか、すでに自分の将来の道すじをはっきりと決めたくて出した結論だということは少ないと思います。それよりも「勉強、勉強と追い立てられるのもうたくさんだ」、「いろいろと行動を縛られるのもうイヤだ」というような、いわば「逃げ」の姿勢からそう言っていることが多いのではないのでしょうか。

まず、「逃げ」の姿勢ではだめだということをはっきりさせることです。また、この世の中は大変に複雑・多様であり、その中でどう生きるか、その方向性を見出すには高校生活は必要だと話してみてください。基礎的な知識や教養を身につけるだけでなく、人間性の形成上大切な時期といえます。さらに、人を雇う側からしても、高校卒業の資格を求めることが多いのが現実です。それだけ努力や経験をしてきたことを求めるからです。

ただ、一口に高校といっても、いろいろな課程・学科があり、学校の特徴・内容にはかなりの違いがあります。本人や親たちの思いこみだけで決めず、中学校での進路指導（相談）を積極的に受けるようにしましょう。また、高校が用意した案内資料やホームページを参考にしたり、学校開放（オープンスクール）や一日体験入学等の機会をなるべく多く活用させ、具体的な高校生活をイメージさせてみることも有効でしょう。

次のQ4にも関連しますが、はっきりとは見定まらないまでも、自分の「夢さがし」から始めて、将来を意識し始めることも大切です。そのようなことを促しながら、進路を選択させてください。



Q 4 自分の将来に対する目標が持てない。 (中2. 女子)

将来に対する目標がなく、学習や部活動に対しても消極的な毎日を送っています。親としてどう対処したらよいでしょうか。

A 4

今の生活は家族の世話になってやっていけるし、この先もしばらくはそうしていけるかもしれない。しかし、何年かすれば精神的にも経済的にも自立した生活をしなければならぬ。仕事を持つにしてもフリーターとかアルバイトといった臨時的な仕事では収入も少ないし、雇用形態も不安定で安心できない——こうしたことをまず考えさせたいものです。

この世の中で生きていくためには、まず自分自身のためになることをお互いにしあって社会の一員にならなければなりません。それが人間らしいことなのだと考えさせてください。社会の中で生きていく力、他人を認める力を身につける過程が大切なのだと気づかせてください。

その上で、本人が興味あるもの、やってみたいこと、今までありがたいと思ったことなどを親子で時間をかけて話し合ってみましょう。まずは、これはしてきてよかった、これをしてあげればよかったと思うことを含めて、親自身の体験をまじえ話してはいかがでしょうか。そのほか身近な人やいろいろな体験・仕事をしてきた人たちの話を聞くことも大事です。学校でも、職場体験の授業を行っているところもありますが、親子でいろいろなところを訪ねてみるのもよいでしょう。思い切って違う環境・職場に接することで、世の中には数多くの仕事があり、生き方があるということに気づききっかけづくりにもなります。

また、学校の図書室や公立図書館には『しごとライブラリー・興味のある仕事を探してみよう』Ⅰ～Ⅳ(旺文社)や『13歳のハローワーク』(幻冬舎)のような、職業の種類や仕事内容をわかりやすく紹介した書物もそろっていますので、ぜひ利用してみてください。

そうするうちに、はじめは漠然としたものでも、やがてはっきりした希望や目標が見えてくると思います。そして、今自分がやっている学習や部活動、あるいは高校に進学してからの生活、さらには読書や趣味、友人との語りの中にも、どこかで自分の将来につながるものがあるのではないかと気づいてくれればよいのではないのでしょうか。

■ 8 情報との関わり

Q 1 携帯電話を持たせてもよいか。

(中1. 女子)

友達はみんな携帯電話を持っているからという理由で携帯電話を買ってほしいとせがまれています。親としてどう対応したらよいでしょうか。

A 1

近年、携帯電話の普及とともに携帯電話に関係した犯罪に中学生が巻き込まれる事件が、全国で多発しています。また、太田市でも携帯メールや携帯サイトに関わるトラブルが増加しています。携帯電話の危険性として、以下のようなことが考えられます。

- 1 迷惑な広告メールの受信
- 2 出会い系サイトへのアクセス
- 3 悪質なチェーンメールの受信
- 4 違法・有害情報へのアクセス
- 5 架空請求・不当請求を受ける
- 6 掲示板の悪質な書き込み



特にインターネット上の掲示板やチャットの中には携帯電話から利用できるものがあり、学校や教師への悪口とともにクラスの友達や同級生等をひぼう中傷する悪質な書き込みをしてしまうことがあります。仲の良かった友達でも、文字だけのやり取りのため言葉の行き違いが生じ、トラブルになってしまうケースは多々あります。

こうしたことを受け、太田市では平成20年7月に太田市教育委員会教育長名で「携帯電話を持たせないようにしましょう」という緊急アピールを出しました。太田市PTA連合会でもこのことに賛同し、保護者に呼びかけていますので、ぜひ携帯を与えないようお願いします。

携帯電話を持つことによるデメリットを保護者がしっかりと理解し、子どもに説明してください。また、担任の先生に相談することも良いかと思います。くれぐれも、通話以外には使わないとか、料金の一部は小遣いから払うとか、子どもから出される条件をう呑みにして買い与えることは避けてください。

Q2 ブログ、裏サイトにアクセスしている。 (中2. 男子)

息子がブログ、裏サイトにアクセスしているようですが、大丈夫か心配です。親としてどう対処したらよいでしょうか。

A2

学校の公式ホームページとは別に、生徒らが独自に立ち上げた「学校裏サイト」については、多くの生徒がその存在を知っています。「学校裏サイト」では、教師や学校への不満だけでなく、個人を特定して「うざい」などのひぼう中傷を書き込まれることが多くあります。裏サイトは、生徒の情報交換や近況報告の場として活用されている例も多いのですが、悪質な書き込みで中傷被害の温床となることで問題化しています。

また、ブログも裏サイトと同様に、顔や名前を知られることがないと思って過激な文章を書き込まれることが多々あります。いわれのない噂やひぼう中傷が殺到して炎上してしまうケースもあります。そのことが原因で精神障害を患ったり、時には、自殺にまで追い込まれたり、刑事事件に発展することもあります。

また、自殺サイトや薬物の斡旋、犯罪への誘い等、中学生にとっては、きわめて有害な情報がいつでも自由に検索できます。

初めは興味本位でやってみたことがいつの間にか深みにはまり、時には被害を受けるだけでなく、加害者となることも十分考えられます。ブログや裏サイトにアクセスしているかどうかを子どもに問いただし、親としてパソコンや携帯電話の利用状況をしっかり把握してください。その上で、子どもにモラルやルールについて理解させ、中学生にとって必要のない、しかも有害性を秘めたブログや学校裏サイトへのアクセスをやめるよう指導してください。

仲の良かった友達同士も、ほんのささいな言葉の行き違いから、仲違いをし、時にはけんかがエスカレートして傷害事件にまでいくこともあります。コミュニ

ケーションは、相手の表情を見て、しっかりと自分の考えを伝えるとともに、相手の考えや気持ち、時には心の痛みを感じ取るための大切な手段です。友達とのつきあい方や接し方について改めて考えさせる良い機会と捉え、ぜひ家族で話し合ってみてください。



■ 9 食事・健康

Q 1 朝食をとらない。

(中2. 女子)

ダイエットのためといって朝食をとらないで学校に行くことがしばしばあります。学校で空腹のため勉強に身が入らないのではないかと心配です。親としてどうしたらいいのでしょうか。

A 1

中学生の時期は、身体の発育をはじめ知的発達や精神発達が大変著しい時期です。これらの発達におおに関わっているのが朝食をはじめとした栄養素のバランスのとれた三食の食事です。集中して授業に取り組み、学習や運動をしっかりとするために朝食は絶対に欠かすことのできないものです。

ところが、この時期はスタイルや身なりや容貌を気にする時期でもあり、間違えた知識から必要以上に食事の量を減らしたり、朝食はとらないほうが美容に良いと考え、あえてとらない子どもがいるようです。

成長期の子どもにとって必要なカロリーをしっかりとることはとても大切であること、朝食を食べないことはダイエットには逆効果になることをしっかり理解させることが大切です。

ダイエットの出発点は一日三度の規則正しい食事であると言われています。一日二食では空腹感が強くなり、逆に食べ過ぎてしまいます。また、空腹時間が長くなると体は飢餓状態に備えて、食べたものを脂肪に変えてため込んでしまいます。

また、朝は体内に取り入れられた養分をエネルギーに変え、老廃物を排出する力がもっともさかんな時間帯ですが、夕方から夜にかけては徐々にこの機能が下がってきます。その結果朝食を抜いて夕食を多くとるとかえって太りやすくなります。同じ摂取カロリー量でも朝と昼にしっかりと食べて夜を軽くするだけでダイエット効果は出るといわれております。

また、便秘の予防のためにも朝食をしっかりとって排便作用を促し、朝食後は必ずトイレに行く習慣を付けることが大切です。

朝はゆとりを持って起床し、朝食をしっかりと、規則正しい生活をするのが健康な体をつくり、美容やダイエットにも効果があるということをしっかり理解させ、実行させることが大切と考えます。



Q2 スポーツをしたがらない。

(中1.男子)

スポーツをしたがりません。するとしても自分の好きなことをほんの少しするだけです。親としては健康のためにやってほしいと思います。どうしたらよいでしょうか。

A2

適度に体を動かすことは、健康を維持する上で大事なことと考えます。しかし、人にはそれぞれ個人差があり、興味の対象も全ての人が同じとは限りません。なかにはスポーツを得意としている人もいれば、不得意と考えている人がいるのも当然のことです。



また、スポーツの種目によっても楽しいと感じる種目があるとすれば、つまらないと感じる種目があるのも当然であります。

スポーツはその目的によって大きく二通りに分けることができます。一つは競技スポーツであり、もう一つは生涯スポーツです。

前者は、勝利を目指して練習を積み、記録や勝敗の結果を求めて行われるスポーツであり、強い意志や体力などが要求されます。スポーツをすることは大事なことです。全ての人がスポーツ選手になる必要はないと考えます。

後者は勝つことを目的とするのではなく、競技をすることに楽しみを求め、スポーツを通して健康維持や人と人との交流を目的として行われるものです。人は健康に日常生活を維持するためには、最低限度の運動は必要ですので自分にあったスポーツを選んで取り組むことは大切なことです。今回のご相談では、全然スポーツをしていないというのではなく、自分の好きな運動を少しずつやっているということですから全く問題はないと考えます。今やっていることを続けていき、他に興味を持ったものができたらそれもやってみるということはいかがでしょうか。むしろ、子どもにスポーツをさせようという考えよりも、家族のそれぞれが生活の中にスポーツを取り入れて楽しみながら健康を維持するように考えてはいかがでしょうか。

家族で手軽にできる運動の例として散歩、ジョギング、ラジオ体操、ストレッチ、縄跳び、バットの素振り、キャッチボール、腹筋運動、背筋運動、スクワット運動等があります。この他にもたくさんあると思われます。家族で楽しみながら取り組んでいただきたいと思います。

■ 10 非行

Q 1 娘が万引きをした。

(中1.女子)

見慣れない化粧品が部屋にいくつかあったので、本人に問いただしたところ友達と一緒に万引きをしてしまったとのこと。部活の悩みを抱え、イライラしている時つい友人の誘いによってしまったとのこと。本人は反省をしているようですが、親としてどのように対処すべきか悩んでいます。

A 1

今の店は品物を盗もうと思えば誰でも盗めそうな状況にあると思います。しかし、そこで万引きをしてしまうか、それを踏みとどめることができるかは人間にとっての大事な分かれ道となります。子どものうちから「万引き」は、「盗み」であり犯罪であることをしっかり自覚させることがとても大事なことであり、「盗み」は、人としての信用を無くし、人と人との信頼関係を損ない、人として絶対にやってはいけない卑劣な行動であるという感覚をしっかりと身につけさせることが極めて大切なことです。

また、万引きは、一度盗んで成功すると、二度三度と繰り返すようになり、徐々に盗むことの罪悪感が薄れ、スリル感が快感となりやめられなくなるケースもあるようです。ですから、子どもの万引きに気づいた時は、すぐにしっかりとした指導が必要になります。

まず、万引きの指導をする場合に大事なことは、指導する大人が万引きは絶対に容認できない行為であるという毅然とした気持ちがあることがその根底になければなりません。また、今回のように万引きが発覚した場合は、単に店にその分のお金を支払っただけでは問題が解決したことにはなりません。万引きをした時点で犯罪を犯したことになりますし、人としての信用を大きく傷つけた行為であったということをしかりその子どもに理解させることが極めて大事なことです。子どもに

このことを理解させることができれば、その後、親子同伴でしっかり店に謝罪をすることも大事なことです。店の人に謝罪する親の姿を見せることにより、子どもは自分の罪の大きさに気づき、二度とこのような行為をしてはいけないと自覚することができるのではないのでしょうか。



Q2 息子の部屋でたばこを見つけた。

(中1. 男子)

息子の部屋を掃除していたらたばこが出てきました。親としてどう対応したらよいでしょうか。

A2

たばこを吸うことは、子どもに限らず大人であってもおおいに健康を害するということが、近年肺ガン等の発生率から証明されております。

また、本人がたばこを直接吸わなくても、近くでたばこを吸っている人がいれば、その煙を吸い込むことにより、たばこを吸ったと同じくらいの健康被害があるとも言われております。

さらに、妊婦にあっては、おなかの胎児の成長・発達にもおおいに影響があり、出産後は、母乳を通して乳児の発達に影響を与えと言われております。このように喫煙による健康被害がデータとしてはっきり証明されているにもかかわらず、依然としてたばこを吸っている人がいます。それはなぜかと言えば、実は、たばこには習慣性があるからだと言われております。たばこを吸っている人の多くは喫煙被害に気づき、何度か禁煙を試みてはいるようですが、禁煙を始めると精神的に落ち着かなくなり長続きができなくなるようです。つまり、これまで依存してきた精神的・肉体的な依存症により、簡単にはやめられなくなってしまうからだと言われております。

近年、健康被害の面から世界中で禁煙運動が叫ばれるようになり、特に、先進国では最近喫煙率が大幅に減少している現状にあります。

しかし、青少年の時期は、たばこをはじめ大人が行っているいろいろな事に興味を持つ時期です。

今回、息子さんの部屋からたばこが見つかったということは、息子さんはすでにたばこを吸っている可能性が高いと思います。ただ単に、法律で禁止されているからという理由だけでやめさせようとするだけでなく、できるだけ喫煙の経験が少なく精神的・肉体的な依存症が少ないうちに喫煙による健康被害の現状について真剣に話し合い、親子で禁煙の実践をしていくことが大事なことと考えます。

仮にも、親が喫煙を続けたままで、子どもだけに禁煙をしろと言うのでは、説得力に欠けます。親子や家族が力を合わせて禁煙に取り組む努力が大切と考えます。



Q3 薬物乱用防止に対する知識を理解させたい。(中1.男子)

子どもがシンナーや薬物に染まらないようにするためには、親は日頃からどう対応したらよいでしょうか。

A3

シンナーを長時間吸引すると神経細胞が麻痺したり破壊されたりして、意識がもうろうとなり幻覚症状が起こったりします。そしてこの行為を繰り返し行くと、破壊された神経細胞は元には戻らなくなり、やがて廃人となってしまいます。シンナーを吸引することは大変危険な行為です。

また、薬物とは一般的にアヘンやモルヒネ、コカイン、大麻(マリファナ)などをさします。これらの薬物を摂取すると麻酔作用を起こすとともに、神経が高揚したり幻覚症状が起こったりします。そして、この行為を繰り返し行うことにより、習慣性や依存性が生じ、次第にその量を増やさなければ満足ができなくなり、やがて中毒症状を起こすようになります。

麻薬の中毒者は、本人の神経細胞の破壊等により精神的欠陥が生じはじめやがて死に至ることもあります。場合によっては本人だけの被害にとどまらなくなることがあります。麻薬に対する異常欲求と禁断症状は、理性を失い種々の犯罪を犯すようにもなります。

それ故、薬物の管理に対しては、日本のみならず国際的に厳重な取り締まりが行われております。しかし、複雑化した国際化社会の到来により、海外からの密輸等による持ち込みが増えている現状にあります。最近では特に、大麻取締法の違反者が異常な増加ぶりとなっています。

薬物を手に入れようとするれば、インターネットの裏サイトや夜の繁華街や知り合いを通して比較的容易に手に入るようになってきているようです。家族や子どもをシンナーや薬物被害から守るためには、日頃から人を廃人に陥れるシンナーや薬物の恐ろしさについて十分に話し合い、家族全体で理解をしていることがとても大切なことと考えます。また、薬物は手に入れることだけでも暴力団等との関係ができてしまい、この関係を断ち切ることは容易ではないこととなります。薬物についての現在の法律では治療以外の薬物の施用を禁止し、所持、栽培、製造、製剤、輸入及び輸出の禁止、小分け、施用のための交付、譲渡、譲受等についても厳しく規制が行われており、違反者は厳しく罰せられることになっております。



Q 4 深夜徘徊・外泊が多い。

(中3. 男子)

やたらと外出、外泊をするようになってともに、友達と一緒にだと言って深夜まで帰宅しないこともあります。悪い友達ができたのではないかと心配です。親としてどう対応したらよいでしょうか。

A 4

群馬県では青少年健全育成条例により、未成年者の午後10時以降の深夜徘徊を規制するとともに、午後6時以降の未成年者のみでの遊技場への出入りを禁止しております。まして、やたらと深夜まで外出をしていたり、外泊をしているという現状は決して良い生活状況であるとはいえません。

悪い友達ができたのではないかと心配されておられますが、その可能性は十分にあります。親として当然心配される現状にあると考えます。

外泊をしたり、深夜まで外出を繰り返していることは、決して良い友達と充実した生活を送っているとは考えられません。早急に生活改善を図っていかねば、今後非行に発展していく可能性は十分にあります。

子どもが家に居着かない原因としてはいくつか考えられますが、ここでは二つの事例について取り上げさせていただきます。

一つは、未だ自立心が十分に育っていないために、自分の将来の目標に向けて今何をしなければならないかが身に付いていない場合です。

中学3年生というこの時期、気の向くままに遊んでいる時期ではありません。親としては、本人の将来に目を向けさせ、将来の目標に向けて今何をしなければならないかを考えさせ、生活態度を改善させるための冷静なアドバイスが大切です。親子で十分に話し合いをしていただきたいと思います。

次に考えられることは、夫婦関係や、親子関係など家庭内の問題がその原因となっている場合です。この場合は家族が十分話し合いを行い、改善できる点は改善をし、家庭の中に本人の居場所づくりをすることが大切なことです。親としては、外出、外泊の時にどのような生活をしているのかを把握しておくことは大切なことです。また、必要に応じて学校や関係機関と連携を図るとともに、友達や友達の親と直接会って話し合いをすることも大変有意義なことと考えます。



子育てに利用できる主な施設及び電話番号

○市役所	0276-47-1111	○沢野児童館	0276-38-1991
○太田行政センター	0276-22-2603	○蕪川児童館	0276-46-9329
○九合行政センター	0276-45-6978	○鳥之郷児童館	0276-32-6601
○沢野行政センター	0276-38-4281	○強戸児童館	0276-37-7773
○蕪川行政センター	0276-48-6853	○休泊児童館	0276-37-9892
○鳥之郷行政センター	0276-32-6854	○宝泉児童館	0276-31-1130
○強戸行政センター	0276-37-4979	○毛里田児童館	0276-37-1314
○休泊行政センター	0276-49-0201	○尾島児童館	0276-52-2945
○宝泉行政センター	0276-32-2688	○世良田児童館	0276-52-5939
○毛里田行政センター	0276-37-1059	○木崎児童館	0276-56-8400
○尾島行政センター	0276-52-2341	○生品児童館（ポラン）	0276-20-9121
○世良田行政センター	0276-52-1002	○綿打児童館（コロソ）	0276-57-3837
○木崎行政センター	0276-56-1053	○藪塚本町児童館	0277-78-3577
○生品行政センター	0276-57-1055	○こども館	0276-57-8010
○綿打行政センター	0276-57-1041	○ぐんまこどもの国児童会館	0276-25-0055
○藪塚本町行政センター	0277-78-2111	○保健センター	0276-46-5115
○藪塚本町中央公民館	0277-78-5411	○尾島保健センター	0276-52-5200
○新田文化会館（エアリス）	0276-57-2222	○新田保健センター	0276-57-2651
○藪塚本町文化ホール	0277-78-0511	○藪塚本町保健センター	0277-20-4400
○社会教育総合センター	0276-22-3442	○平日夜間急病診療所	0276-60-3099
○学習文化センター	0276-48-6280	○家庭児童相談室	0276-47-1911
○中央図書館	0276-48-6226	○ファミリー・サポートセンター	0276-46-5811
○尾島図書館	0276-60-7288	○教育研究所	0276-20-7089
○新田図書館	0276-57-2676	○ヤング・テレホン	0276-52-6701
○藪塚本町図書館	0277-78-0512	○東部児童相談所	0276-31-3721
○児童センター	0276-25-6430	○太田警察署	0276-33-0110
○九合児童館	0276-48-1148		

あすの太田っ子を育てる親への提言

中学生編

平成 22 年 3 月 改訂版第 1 刷発行

編 集 太田市社会教育委員

発 行 太田市（生涯学習課）
〒373-0025 太田市熊野町 23 番地 19 号
TEL. (0276) 22-3442

本書の内容を無断で転載、複製することを禁じます。